◇◇◇

あけましておめでとうございます

今年も海の生き物を守る会をどうかよろしくお願いいたします

2015 年元旦

目次

「今月の海の生き物」ベルーガ（シロイルカ）・・・・・・・・・・・・・・1
1. 「海の生き物を守る会」の活動について・・・・・・・・・・・・・2
2. 「イカとタコ 切手コレクション」（13）立川賢一・・・・・・・・4
3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース・・・・・・・・・5
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報・・・・・・・・6
5. 海の生き物とその環境に関する出版物および CD・・・・・・・・・8
6. 「きらめく動物たちの命と海　久保田信の白浜だより」（73）・・9
7. 「有明海と三陸の水辺から」（5）田中 克・・・・・・・・・・・・10
8. 事務局便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
9. 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

1.「海の生き物を守る会」の活動について

●海の生き物を守るフォーラム 2015
「海と人間の関わり方を考える ～コンクリート文明からの脱却～」を開催します

2 月 11 日に大阪の「クレオ大阪東」で、「海の生き物を守るフォーラム 2015　海と人間の関わり方を考える ～コンクリート文明からの脱却～」と題したフォーラムを以下の要領で開催します。

このフォーラムでは、諫早湾・有明海の問題と東北防潮堤問題を中心に、日本におけるこれまでの自然と人間との関わり方を振り返り、これからのあり方を考えたいと思います。多くの皆さまの議論への参加を期待いたします。

また、フォーラムでは、京都在住の歌手江藤ゆう子さんに、海と人間の絆、残していきたい海と人間の歌を歌っていただきます。心を癒やす江藤さんの歌声をお楽しみください。

「海と人間の関わり方を考える　～コンクリート文明からの脱却～」

日時：2 月 11 日（水・祝日）13:00～17:20

会場：クレオ大阪東（大阪市男女共同参画センター東部館）2F　音楽室（多目的室）

大阪市城東区鴫野西 2 丁目 1－21　Tel: 06-6965-1200

アクセス：JR 京橋駅・京阪京橋駅から南へ約 600m。徒歩 10 分。

プログラム　　司会：江藤ゆう子

・趣旨説明：向井 宏（海の生き物を守る会 代表）

・講演 1「干潟の生き物から見た諫早湾干拓事業」佐藤 正典（鹿児島大学教授）

・講演 2「有明海再生への提言と防潮堤建設への疑問」田中 克（京都大学名誉教授・舞根森里海研究所所長）

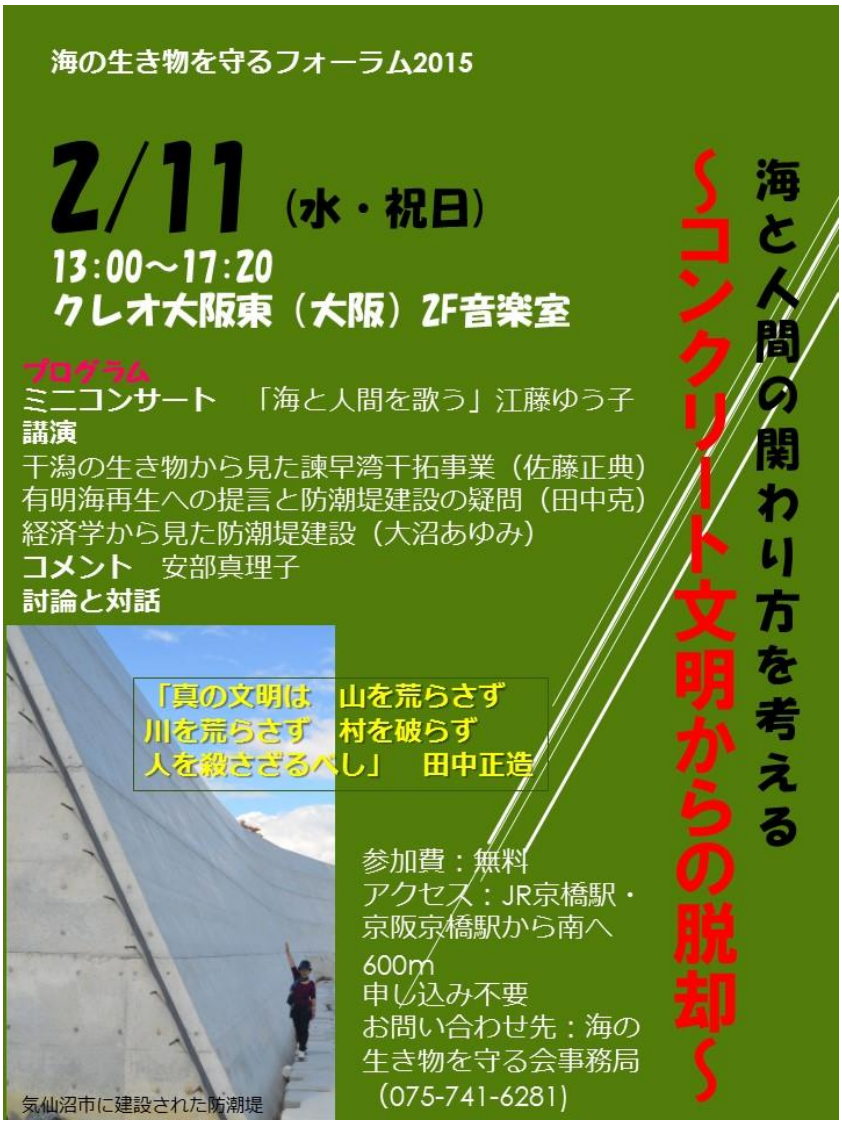
・「海と人間を歌う」江藤ゆう子（歌手）

・講演 3「経済学から見た防潮堤建設」（仮題）大沼あゆみ（慶應義塾大学教授）

・コメント「公共事業の問題点　環境女子会の議論から」安部 真理子（日本自然保護協会）

・討論と対話「コンクリート文明をどうするか？」司会：向井 宏　　全講演者と会場との討論と対話

終了後、海の生き物を守る会の総会を行います。



●2/11 総会にも参加を！

海の生き物を守る会の総会を、2 月 11 日に、大阪市京橋駅商店街の居酒屋で開きます。「海の生き物を守るフォーラム 2015」の終了後、夕食を食べながら行います。会員の方は、ぜひご出席ください。フォーラムに参加できなくても、総会だけでも参加できる人はご参集ください。会員で、やむを得ず欠席される方は、委任状※をお送りください。また、入会希望者もご参加いただけます。

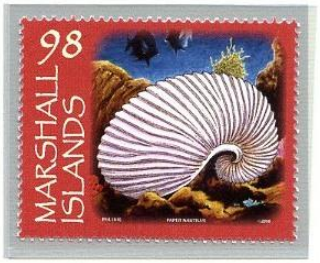
※委任状送信用フォームは次の「会報」でご連絡します。メールで提出の場合は右記へ　hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

2. イカとタコ 切手コレクション（13）　立川賢一

頭足綱二鰓亜綱タコ目

アオイガイ科アオイガイ属（*Argonauta sp.*）

アオイガイ（*Argonauta agro*）は殻を持った浮遊性のタコです。ただし、殻を持つのは雌だけです。雌の全長は25cmですが、雄は5cmほどです。



*Argonauta nodosa*もアオイガイの仲間です。雌は特殊化した腕から分泌して殻を作りますが、これは卵を保護するためです。

ジュウモンジダコ科

Stauroteuthis gilchristi

Stauroteuthis syrtensisi

Grimpoteuthis innominata

いずれも数百メートル以深の深海に住んでいるイカ類で、生態などほとんど不明です。
*G.innominata*は英名が、Dumbo Octopusで、映画のジャンボのモデルとも言われています。

スカシダコ科

Vitreledonella alberti

イボダコ亜科

Thaumeledone gunteri

ヒゲダコ科

Cirrothauma murrayi

3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【中部】

●豊川流域で活断層を発見　設楽ダム建設中止を　市民らが発表

愛知県豊川の上流で国交省が設楽ダムの建設を計画しているが、市民団体「設楽ダムの建設中止を求める会」は、豊川市の本宮山麓で活断層を発見したと発表した。そして、この活断層がダム建設予定地の設楽町まで伸びている可能性があるとして、国交省に詳細な地質調査を求めている。国交省中部整備局では、設楽ダム建設予定地には活断層はないと説明しているが、中止を求める会では、予定地の基礎的な基盤調査・地質調査からやり直すべきだとしている。

【九州】

●「開門で有明海の再生を」　抗議集会 in 長崎

長崎県諫早湾の潮受け堤防排水門の開門を命じた福岡高裁判決が確定していながら、1 年たった今も国が開門をしないことに抗議する「抗議全国集会 in 長崎」が 2014 年 12 月 21 日、長崎市内で開かれた。国は長崎地裁が開門を差し止める仮処分を決定したことを理由に、門を開けようとしない。抗議集会は、「よみがえれ！有明訴訟」の原告・弁護団などが主催した。

馬奈木弁護団長は、開門問題に触れないまま開かれている「有明海再生協議会」をごまかし協議と批判して、国は漁業被害に向き合っていないと断罪した上で、開門するまで国が制裁金を支払う間接強制決定が最高裁でも認められたことを強調、税金の無駄遣いは許されないと指摘した。諫早市小長井の漁業者は、「1 年たっても開けないのは、漁業被害は干拓の影響だと国が認めたに等しい」と述べ、出席した水俣病患者団体の関係者は、「近代国家としてあるまじきこと」と批判、石木ダム建設に反対する地権者は、「緊急性があるのは石木ダムではなく開門だ」と訴えた。

【沖縄】

●ザトウクジラがやってきた　慶良間諸島

沖縄県座間味島の北約 5km の海域で、2014 年 12 月 23 日、今冬初めてザトウクジラが確認された。北の海からの長い旅を終え、慶良間諸島の冬の主役が登場した。慶良間諸島沖では、ホエールウオッチングが本格的に始まる。現場海域は、2013 年に海洋を中心とする国立公園に指定されたところ。この国立公園の特色が沖合 7km までの広範囲に指定された海域公園で、ザトウクジラの存在が目玉である。

【全国】

●原発停止で生態系が回復　藻場の復活　各地で

原発の温排水が海に与える悪影響について、海の生き物を守る会ではこれまでも主張してきたが、すべての原発が停止している現在、各地の海で暖水系の生物が減り、本来の生態系が復活していることが報告されている。

福井県高浜原発の放水口の北東約 2km の海で定点観測をしている京都大学舞鶴水産実験所の益田玲爾所長は、「南方系の魚介類が生活できるギリギリの温度は 11℃ですが、原発が稼働しているときには南方

系の魚介類が冬を越すことができ、本来いるはずのない生物が繁殖することで、若狭湾の生態系に大きな混乱が起きていました」と、原発の温排水が若狭湾の生態系に著しい影響を与え、ムラサキウニなどがいなくなっていったことを証明した。益田さんによると、「暖海性のウニ、ガンガゼが大量発生していたが、温排水が止まったことでガンガゼが死滅、ムラサキウニやアカウニのような地元のウニが復活してきました。同様に、食用のマナマコも南方系のトラフナマコが減少して、また数を増やし始めている」。

温排水が停止したことで、著しい影響を受けているのは、海藻群落の復活である。磯焼け状態が続いていた海域では、原発の停止以後、各地で藻場が復活している。藻場は魚介類の餌場でもあり、棲み場所でもある。海藻は温度の上昇の直接的な影響で消失するばかりではなく、アイゴのような草食性の南方魚類の北上の影響で、各地で磯焼け現象を招いていた。佐賀県玄海原発の周辺でも、原発の停止後に海中の生態系が劇的に変化している状況が、地元ダイバーによって確認されている。

【世界】

●鳥インフルエンザでアザラシ 3000 頭が死亡　北海

スウェーデン海洋・水管理庁は、2014 年 12 月 16 日に声明を出し、スウェーデンとデンマークの沖合で約 3000 頭のアザラシが死亡、これらのアザラシから H10N7 の鳥インフルエンザウイルスが検出されたと発表した。スウェーデン沖には約 1 万頭のアザラシが生息していると推定されている。鳥インフルエンザに罹病したアザラシは、2014 年 4 月から発見され始めたが、これほど多くのアザラシが犠牲になるとは想像していなかったと言う。それでも、まだ全体像は把握できていないとも述べている。また、ドイツでも 13000 頭のアザラシの内、1600 頭が鳥インフルエンザで死亡したと発表している。

4. 海の生き物に関する運動･行事･他の団体の情報

【関東】

◆セミナー「ウナギの生態を知ろう」

ニホンウナギは、マリアナ海溝付近で産卵し孵化した後に、台湾・中国・日本などの河口部にシラスウナギとして到来、川をのぼって親ウナギに成長するとされています。私たちがもっともなじみ深い養殖ウナギは、稚魚であるシラスウナギを捕獲して養鰻場で育てられたものです。しかし、シラスウナギの漁獲量は 1960 年代から減少し続けています。環境省は、2013 年 2 月にニホンウナギを絶滅の恐れのある種に選定、国際自然保護連合（IUCN）は、2014 年にニホンウナギを絶滅危機 1 B 類／絶滅危惧種に指定しました。シラスウナギの価格の高騰から、各地の養鰻場もその存続が心配されています。

こんなウナギのまだまだ謎の多い生態について、IUCN によるウナギ属魚類のアセスメントにも参加した気鋭の研究者、海部健三さんからお話を伺います。どなたでもお気軽にご参加ください。

講師：海部 健三（かいふ・けんぞう）農学博士／中央大学法学部助教

日時：1 月 15 日（木）16:00～18:00

会場：東京海洋大学品川キャンパス 附属図書館 1 階スペース

参加：無料、予約不要

主催：海洋マネジメント研究会／協力：東京海洋大学附属図書館

お問い合わせ：川辺みどり（東京海洋大学大学院）03-5463-0574　kawabe@kaiyodai.ac.jp

【中四国】

◆「奇跡の海」上関でプランクトン調査

原発の建設計画がある山口県上関の海は、カンムリウミスズメやオオミズナギドリなど貴重な海鳥が生息する「奇跡の海」です。上関の自然を守る会では、昨年 6 月からこれらの海鳥の餌環境を調査するために、プランクトン・稚魚調査を行っています。今年の予定は以下の通りです。参加希望者は、ご連絡下さい。

1 月 17 日（土）9:00~16:00　海洋調査　室津港から入出港

1 月 18 日（日）10:00~12:00　プランクトン・稚魚のより分け作業　（岩国にて）

3 月 21 日（土）（予定）海洋調査

3 月 22 日（日）（予定）プランクトン・稚魚のより分け作業　（岩国にて）

問い合わせは、上関の自然を守る会　代表　高島美登里 〒742-1403　山口県熊毛郡上関町室津 1103-5
TEL 090(8995)8799 FAX 0820(62)0710 mail midori.t@crocus.ocn.ne.jp

【沖縄】

◆リーフチェックトレーニング　参加者募集中！

リーフチェックは世界規模のサンゴ礁モニタリングプログラムです。市民に調査員として参加していただく方法で、世界の多くの場所で 1997 年より行われています。今回は多くのみなさまにリーフチェックという方法を知っていただくために、長年日本のリーフチェックコーディネーターをつとめてきた 2 名が中心となって、改めて場を作ることにしました。どのような方法か知りたいと思いつつなかなか機会のなかった方や、部分的に参加したことがあるものの、どのような調査方法なのか全体像を知らなかった方、再度学んでみたい方など多くの方にぜひご参加いただきたく思います。

水深の浅い沖縄島・泡瀬干潟をトレーニングの場として選び、またより多くの方に学んでいただけるよう、タンクを背負うスキューバダイビングではなくシュノーケルで行いたいと思います。講義には、サンゴやサンゴ礁の基礎知識からサンゴ礁の調査方法全般について、またフィールドとする泡瀬干潟の話や、与論島在住の講師からの与論のサンゴの話など幅広い話を含めます。

部分参加も受け付けます。また年が明けてから講義のスケジュール等を含めまして改めてご案内させていただきます。船の手配等の関係から★1 月 9 日までにご連絡・お問い合わせいただけますと幸いです。

日時：1 月 23 日（金）夜～1 月 25 日（日）夕方

スケジュール：	23 日（金）	夜	リーフチェックとは（講義）
	24 日（土）	朝	調査機材の点検と講
		昼	泡瀬干潟にて調査の練習（フィールド実習）
		夜	講義の続き
	25 日（日）	朝	講義
		昼	泡瀬干潟にて調査本番（フィールド実習）
		夕方	とりまとめ

夜　　懇親会

講師：渡辺暢雄（ヨロンの海サンゴ礁再生協議会*）、安部真理子（沖縄リーフチェック研究会*）、前川盛治/小橋川共男（泡瀬干潟を守る連絡会）ほか　*リーフチェックコーディネーター

持ち物：シュノーケル機材

講義場所：泡瀬干潟ウミエラ館（沖縄市泡瀬 3-47-1）

参加費：無料（傭船費、保険代、港までの移動費等は当方負担。飛行機・船代、宿泊・食費は自己負担）

※宿泊が必要な方についてはまとめて当方で予約したいと思います。早めに打診ください

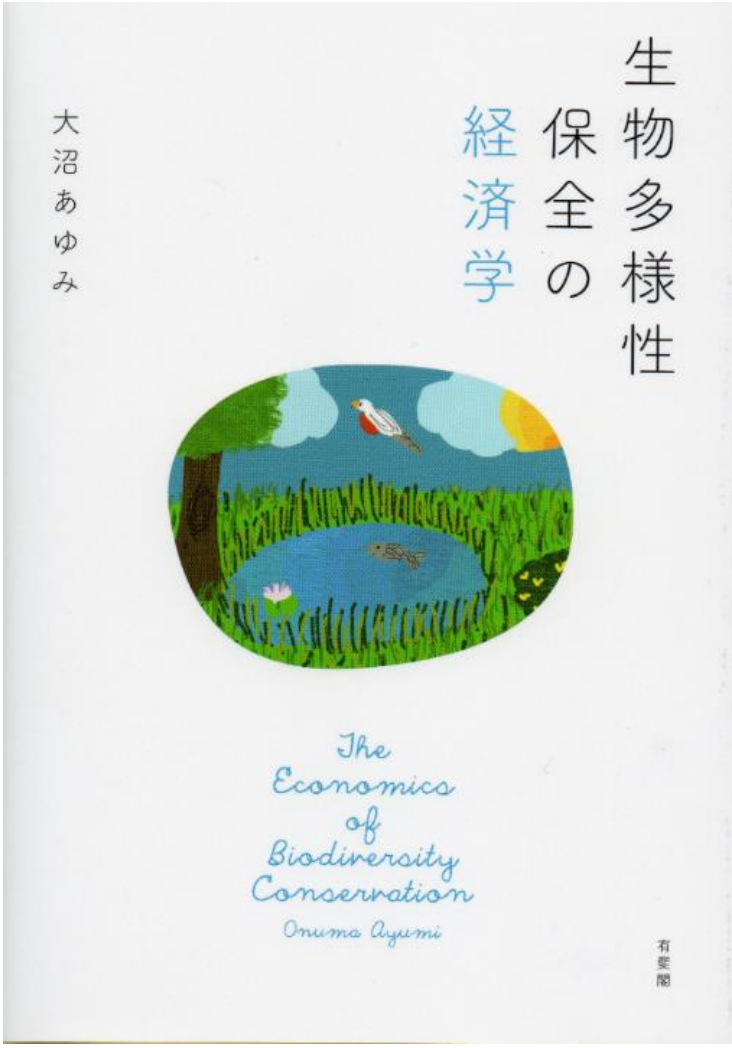
※このトレーニングは沖縄県サンゴ礁保全推進協議会支援事業です

★申し込み：1 月 9 日（金）締め切り

問い合わせ：沖縄リーフチェック研究会　安部真理子　shark@xc4.so-net.ne.jp　tel:080-5067-0957

5. 海の生き物とその環境に関する出版物およびCD

●大沼あゆみ「生物多様性保全の経済学」　有斐閣　(2014)　¥2,500+税　pp.378



これまで生物多様性保全の視点をまったく持ってこなかった経済学。近年の環境経済学さえも生物多様性には関心を示すことはなかった。その中で、生物多様性を保全するための経済学を、分かりやすい文章で問う初めての啓蒙書。なぜ生物多様性を守るのかという根源的な問いから、どうすれば守れるかまで、環境問題に関心を持つ人たちに、新しい見方を教える書である。海の生き物を守るためにも、参考になるだろう。

6. きらめく動物たちの命と海
【久保田信の白浜だより(その73)】

番所崎(和歌山県白浜町)に打ち上がったイガイ(二枚貝類)

京都大学瀬戸臨海実験所へ筆者が赴任して 22 年が経過した。その間、実験所の敷地内の“北浜”や“南浜”、さらには、そのすぐ周辺の番所崎で打ち上げ調査や生態調査などを行ってきた。意外なことに、イガイの新鮮な死亡個体が、2014 年 8 月 12 日、洞門のすぐ西側の磯に打ち上がった。この個体にはまだ軟体部が全て残っていた。その貝殻の大きさは 63mm で、本種としてはやや小型だった。

2014 年 8 月 9 日から 11 日にかけては、折からの台風が白浜町沿岸に激しい波浪をもたらした。この影響で本個体が付着場所から剥がされ、打ち上げられたのに違いない。番所崎には、このあたりでは非常に珍しいイガイが生息していたのである。

イガイの生体を実験所のすぐ傍の田辺湾口に位置する塔島で見たことがあった。それは約 20 年も前のことだった。岩礁の潮間帯に少数ながらも付着していた。その後はこの海域の潮間帯のどこにも姿を見せなくなった。従って今回の発見は貴重である。潜水調査で生息を、しかと確かめる必要があるだろう。

イガイは“瀬戸貝”とも呼ばれ、小生の生まれ故郷である愛媛県松山市三津浜町で子供の頃に家庭料理としてよく食べた。イガイは北海道から九州の潮間帯から水深 20m の岩礁に生息する日本特産種なので貴重な種類なのであるが……。

図. 和歌山県白浜町番所崎(洞門の西側の磯)に打ち上がったイガイの死亡個体

7. 有明海と三陸の水辺から(5)　田中　克

有明海から姿を消すアサリとその再生

かつての有明海は、漁業者から“宝の海”と呼ばれ、四季を通じて“湧き出るように”生まれる多様な生き物にあふれ、沿岸地域経済の柱として、自然と共に生きる地域社会を支えてきました。しかし、20 世紀後半に始まる高度経済成長社会は、有明海の命の源である筑後川の河川敷から膨大な量の砂を持ち出し、福岡都市圏に水を送るために筑後大堰を造り、さらに有明海の“子宮”と呼ばれた諫早湾奥部に 2,500 億円もの巨費を投じて潮受け堤防を造り、湾奥部の広大な泥干潟を埋め立てしまう等、過度の開発が集中しました。

その結果、かつては貝類だけでもタイラギ・アゲマキ・ウミタケ・アサリ・サルボウガイ・アカガイなどの多様な種類を漁獲していた漁船漁業は深刻な打撃を受け、今では残された主要漁獲対象種は有明海特産種のビゼンクラゲのみと言う末期的事態に至っています。1980 年代には最高 9 万トンも漁獲されていたアサリは 1990 年代末には数千トンにまで激減してしまいました。現在の日本の漁獲量が 3 万トンですから、その多さに驚かされます。

このような急激なアサリ資源の減少の根本原因は何でしょうか。有明海を特徴づける汽水と濁りの海の源は筑後川であり、阿蘇・九重山系から、干潟を更新する土砂、基礎生産を促す栄養塩類・微量元素、濁りを生みだす微小な火山性鉱物粒子などが、川や地下水系を通じて不断に流入し、海の生き物たちの生産を支えてきました。このことは多くの山系に囲まれ多様な河川が流入する有明海全体に共通の仕組みと言えます。上述の 3 つの巨大開発に共通の本質は、陸（森）と海のつながりの人為的断絶そのものと言えます。

2010 年 10 月に開催された「第 1 回森里海連環による有明海再生シンポジウム」を契機に、有明海の腎臓機能を担う干潟の再生実験に取り組む機運が高まりました。有明海干潟の主役と言えるアサリの復活を指標に、漁民・市民・研究者の連携のものとに 2011 年 4 月より佐賀県太良町で現場実験がスタートしました（写真１）。以前はアサリだけで十分に暮らしが成り立っていた干潟に、もう一度アサリを呼び戻すことができないかと願う漁師の必死の熱い思いに市民や研究者が協力する形で、干潟再生実験が始まりました。

この間、森と海のつながりに基づくいろいろな手を干潟に加える中で、科学的根拠の実証は持ち越されましたが、2013 年冬季にはアサリの稚貝が現れ出し（写真２）、夏を乗り越え、2014 年春には、市民の皆さん、とりわけこれからの時代を担う若者たちと共に楽しむ「潮干狩り復活祭り」を開催することができました。この潮干狩りに参加された古老の一言「これぞ、懐かしい有明のアサリの味だ」にアサリ復活の意味を再認識させられました。

写真1　漁民･市民･研究者の連携のもとに始められた干潟再生実験（佐賀県太良町）

この実験場には、諫早湾の干拓で大量に死滅した有明海特産種のハイガイや準特産種のミドリシャミセンガイ、さらにはかつて有明海の漁業を支えたタイラギなども散見され、絶滅が危惧される生き物たちのサンクチュアリーとしての機能も担っていると思われます。

写真2　軟泥干潟から砂泥化した干潟に現れた無数の穴と掘り出されたアサリ

8. 事務局便り

- 「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は、事務局までご連絡ください。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし、写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ご一緒に講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ口座「ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせください。
- うみひるもの表紙を飾る海の生き物の写真を募集しています。種名同定済みの写真ですと、大変助かります。海にお出かけの際には、カメラご持参で。そして、ベストショットが撮れたら、是非、うみひるも編集部までお送りください！

9. 編集後記

あけましておめでとうございます！　お正月でお酒が入ってタコのように赤くなり、まな板の上のイカのようにダラリとしている方もいらっしゃるのでは？　立川賢一さんの切手コレクション、最近はイカタコ特集です。今回はジュウモンジダコ科が登場しました（p5）。海底に鎮座している図（右端の切手）は、まるでミミズクのよう。なんともキュートです。（編注：その下の説明文に「イカ類」とあるのは「タコ類」、映画のジャンボとあるのは、ディズニーのアニメ映画「ダンボ」のことです。この場を借りて訂正いたします。）

さて、ダンボの耳のように見えるヒレで優雅に泳ぐジュウモンジダコの姿は、「しんかい 2000」で撮影されて、JAMSTEC（独立行政法人海洋研究開発機構）のホームページで公開されています。水圧は強烈だし、食べ物は極少だし、とにかくシビアな環境の深海。そこで生きる彼らの動画を、お正月ののんびりムードの中、日本酒片手に、クリックひとつで見られるなんて。こうした技術は、ヒトの心に傲慢さを生むでしょうか、それとも同じ地球上に一緒に生きている全く別の命をいつも意識できることで、かえって謙虚さを生むのでしょうか……。後者の思いが世の中に広がる 1 年になりますように。今年も『うみひるも』を、よろしくお願い申し上げます。（ちよ）

景気回復が最大の関心事とされる中で、日本の自然は分断され、汚され、そして回復が不可能なまで壊され続けていきます。あらゆるところにコンクリートで固められ、生き物が生きられない環境が作られています。コンクリート文明とでも言うべき現在の日本。いずれ私たちの子どもたちは、そのツケを払わされることでしょう。先日、パタゴニアという会社が作った映画「ダムネーション」を見ました。川の流れを取り戻し、生き物が住める環境を取り戻す戦いがアメリカでは進んでいます。すでに 800 基を超えるダムが取り壊されました。しかし、日本ではやっと 1 基が取り壊されたばかりです。熊本県の荒瀬ダムが撤去されて、川も海も生き物が溢れる環境が戻ってきてい

ます。ダム、防潮堤、埋め立てなど、コンクリート文明を問い直すために、今年 2 月 11 日に大阪でフォーラムを開きます。ぜひ多くの方が参加して、コンクリート文明を転換する戦いに加わっていただきたいと思います。子どもたちのためにも。夏前には、奄美大島で辺野古の埋め立てに使うための自然豊かな山の破壊を止めようと、地元の人たちとフォーラムを開催することになりました。詳細が決まりましたら、ご案内いたします。こちらにもぜひおいで下さい。今年もいっそうの活動をしたいと思っております。よろしくご協力お願いいたします。（宏）

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。年会費は個人 2,000 円、団体 20,000 円。匿名による参加も可能。会員は、各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行い、そのための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。

メールマガジン『うみひるも』第 149 号
2015 年 1 月 1 日発行
発行「海の生き物を守る会」代表　向井 宏
編集：瀬戸内 千代
〒606-8413　京都市左京区浄土寺下馬場町 69 番地
TEL&FAX:075-741-6281　メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp
ホームページ URL：http://e-amco.com/
銀行口座：ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会
全銀システムで送金する場合は、068 店（ぜろろくはち店）0667302 ウミノイキモノヲマモルカイ